

授業科目名	TSUKUBA 新型コロナ社会学
授業形態	講義
標準履修年次	1-4 年次
実施学期・曜 時限等	春 A 火曜 1・2 限 (8:40-11:25)
単位数	1.0
担当教員 (オーガナイ ザー)	秋山 肇
コンピテンス との関係	汎用コンピテンス「2. 批判的・創造的思考力」、「4. 広い視野と国際性」に関連する。
授業の到達目 標	新型コロナウイルスに対応するために実施されている多様な研究を知り、社会問題解決のための科学・学問の役割、学際的な知の必要性について自らの見解を説明することができるようになる。
授業概要	<p>2020 年、世界各国が新型コロナウイルスの深刻な影響を受ける中、筑波大学では「『知』活用プログラム」として 27 件の研究プロジェクトが始動しました。同プログラムにはウイルス学、医学・生物学、健康科学、数理科学、情報学、教育学、社会心理学、社会政策学、法学、経済学、芸術学等のプロジェクトが採択され、総合大学である筑波大学の多様な知が結集しています。オムニバス形式で開講される本科目は、6 の系に所属する 10 人の研究者による新型コロナウイルスの影響に関する最先端の研究成果を学生と共有し、新型コロナウイルスに対応するための科学・学問・社会の在り方について学際的な視点で考える機会を提供します。</p> <p>The University of Tsukuba launched the “Employing the University Wisdom to Fight against the COVID-19 Crisis” programme to deal with COVID-19, and the programme adopted twenty-seven projects. Projects include virology, medicine, biology, health science, mathematical science, informatics, education, social psychology, social policy, economics, and arts. These diverse areas indicate the wideness of the research at the University of Tsukuba. Ten scholars from six faculties of the university share their knowledge based on the projects to encourage students to acquire interdisciplinary perspectives to think about science and society to deal with COVID-19.</p>
キーワード	新型コロナ、筑波大学「知」活用プログラム、TSUKUBA、学際性
授業内容	<p>授業は基本的に日本語で実施します。第 4 回は英語で実施しますが、英語に自信のない学生の受講も歓迎します。 授業タイトルは全て仮題です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>COVID-19 と日本国憲法 秋山 肇 (人文社会系)</li> <li>日本・英国・ドイツの COVID-19 対応政策と市民の行動変容 谷口 綾子 (システム情報系)</li> <li>コロナ時代の人の越境をめぐる政策と技術 明石 純一 (人文社会系)</li> <li>The Coronavirus and Mandatory Telework from Home: Effects on Regular Workers' Subjective Well-being, New Male Roles, and Job Productivity (新型コロナウイルスによる強制的な在宅勤務は、主観的な幸福・仕事の生産性・男性の役割にどのように影響したか?) Remy Magnier-Watanabe, Faculty of Business Sciences マニエー渡邊 レミー (ビジネスサイエンス系)</li> <li>新型コロナ時代の公衆衛生の役割を考える 堀 愛 (医学医療系)</li> </ol>

	<p>6. COVID-19 感染拡大が高齢者の活動に及ぼす影響 山田 実（人間系）</p> <p>7. 障害者の孤立・虐待の実態把握と対策 大村 美保（人間系）</p> <p>8. 障害の有無にかかわらず、学びやすいユニバーサルな学習環境 佐々木 銀河（人間系）</p> <p>9. ディスタンス・アートの創出手法分析 宮本 道人（システム情報系）</p> <p>10. COVID19 下の創造性と芸術表現 池田 真利子（芸術系）</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学習方法	<p>講義を中心としますが、担当者により演習を併用する場合があります。</p> <p>筑波大学学群学則第 30 条は、「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成する」としています。1 週間に約 3 時間の授業が実施されますので、授業外で週平均 6 時間の学習が必要です。授業外学修としては、自ら関連するニュース、文献を調べ、予習・復習を行った上で、期末レポートを作成してください。</p>
成績評価方法	<p>期末レポート 100%</p> <p>「新型コロナウイルスに対応するための学問の役割は何か」について、2000 字以上の期末レポートを作成してください。本科目の 2 回以上、できれば 3 回以上の講義に関連させてください。</p> <p>なお、積極的な授業参加には加点される可能性があります。</p>
教材・参考文献・配布資料等	<p>筑波大学「知」活用プログラムウェブサイト <a href="https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/">https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/</a></p>
その他（受講生に望むことや受講上の注意点等）	<p>この授業を通して、コロナ禍における科学・学問の役割、筑波大学で学ぶ意味を共に考えてみたいと思います。</p> <p>授業実施形態は、オンライン（同時双方向型）を予定しており、授業を録画して配信することがあります。</p>